

第27回男子ハンドボール世界選手権2021エジプト

試合結果報告

試合日 2021年1月25日

メインラウンド

J P N		B R N
19	前半	12
10	後半	13
29	合計	25

戦況

別紙

No.	ポジション	氏名	得点
10	LW	杉岡尚樹	
12	GK	岩下祐太	
13	PV	笠原謙哉	
14	CB	北詰明未	
15	LB	部井久アダム勇樹	
18	LB	成田幸平	2
19	RB	徳田新之介	
20	RB	渡部仁	8
21	LW	土井レミイ杏利	1
22	GK	坂井幹	
25	RW	元木博紀	5
27	PV	玉川裕康	
31	LB	吉野樹	9
33	CB	東江雄斗	1
36	RW	出村直嗣	
38	CB	水町孝太郎	1
39	GK	中村匠	
40	PV	高野颯太	
41	RB	徳田廉之介	
43	PV	吉田守一	2
合計			29

戦況

世界選手権、メインラウンド最終戦、今大会のラストゲーム。相手はアジア大陸代表として既に東京オリンピック出場権を獲得しているバーレーン。昨年のアジア選手権では2戦2勝だが、ダグル・シングルソン監督就任後では2勝3敗とまだ負け越しているアジアを代表する強豪国。この3年間で6戦目となるバーレーンに勝って有終の美を飾りたいところ。監督は両チームともにアイスランド出身。

日本の攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木がRW、土井がLW、PVに笠原の布陣。守備は、GKに岩下、成田と笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「6-0 DF」でゲームスタート。一昨日のデンマーク戦ではベンチアウトであった土井と元木、岩下が登録メンバーに復帰して、代わりに、杉岡、徳田(新)、中村、部井久がメンバー外となった。

立ち上がり、日本は相手の「5-1 DF」に対するコンビネーションから渡部のカットインで先制。その後も、テクニカルエラーからの逆速攻を許すも、コンビネーションから吉野のミドル、渡部のステップで巻き返す。4-4で迎えた前半7分、岩下のファインセーブから成田の速攻でバーレーンが退場者を出す。このチャンスを東江が7mスローを落ち着いて決める。日本は数的優位の時間を効果的に活用し、渡部のカットイン、元木のインターセプトからの速攻、土井のサイド、岩下の好セーブなどで流れを引き寄せ、着実にリードを広げていく。DFも機能し始め、事前の分析結果からチームミーティングを通して共有した内容を的確に各自が実行していく。19分には、渡部のカットイン、この日好調の岩下(セーブ率40%)のファインセーブから吉野、成田の連続速攻の3連取で13-7とする。バーレーンもオリンピックアジア大陸予選覇者の意地を見せ、Husain Alsayyadを中心に攻撃を試みるが、GK岩下が再三の好守を見せるなど日本の「6-0 DF」を崩せない。前半終了間際にバーレーンはDFシステムを「5-1 DF」に変更するも、日本に傾いた流れを変えることはできず、日本が19-12と大差で前半を折り返す。

ハーフタイムでは速攻の走り方やボールの繋ぎ方、バーレーンのコンビネーションプレーに対するDF面での修正ポイントを確認。

後半、両チームGKの好セーブもあり、一進一退の攻防が続く。日本は退場者を出し、苦しい時間帯もあったが、この日のMVPに選ばれた吉野の活躍で得点を重ねていく。テクニカルエラーが続き、得点を奪えない時間もDF、シュートブロック、GKの堅守で奮闘、相手をリズムに乗せない。元木のサイドや吉野のポストなどでリードを保ちつつ、新規メンバーを入れ替えて対応する日本は、残り5分でバーレーンに3連続得点を許すが、そのまま危なげなく29-25で勝利。有終の美を飾り大会を終えた。この試合のMVPには9得点、ゴール決定率90%の活躍を見せた吉野が選ばれた。

東京オリンピックでも対戦する可能性のあるバーレーンに快勝し、メインラウンド初勝利を挙げて今大会を終えた。日本のメインラウンドでの勝利は史上初。今大会、欧州の強豪国に迫る戦いぶり、確実に成長した姿を日本をはじめ、世界に向けて発信できたと感じる。

一昨年1月に行われた前回大会では7戦全敗に終わり、出場24チーム中(当時)唯一白星なしの最下位に沈んだが、そこからもう一度初心に帰り心身を鍛え直して臨んだ今大会で、確かな成長の跡を刻むことができた。このまま歩みを止めることなく、さらに前進していきたい。